天

湖東・湖北

毎月第３日曜日発行

2023 1月号 Vol.158

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会　協賛
毎日新聞湖北ブロック会事務局（毎日新聞長浜販売所）
滋賀県長浜市小堀町 347-5　TEL.0749-62-0954
制作 / オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）

湖　東

彦根

老舗などの味を初輸出
台湾の食品フェアで

日本貿易振興機構（ジェトロ）などが2022年11月に台湾で催した「滋賀の食材」フェアで、彦根市内の3社（いと重菓舗、水谷醤油醸造場、木村水産）が商品輸出を果たした。

同市本町のいと重菓舗はレアチーズケーキ「和こん」を輸出した。同店の創業は1809（文化6）年。糸問屋だった糸屋重兵衛が、妻の夢のお告げに従い菓子業を始めたとされる。藤田武史社長は「今回の初輸出は彦根城の世界遺産化推進の一環」とコメントしている。

また、同市日夏町の水谷醤油醸造場は肉料理によく合う商品「日々是好日」を出品した。1853（嘉永6）年創業の同社は近年、杉だる仕込みの天然醸造を復活させ、理想の風味の追求を続けている。6代目の水谷優太さんは今回、台湾の会場を自ら訪問。今後の輸出拡大に向け、消費者の声に耳を傾けた。

【彦根通信部・伊藤信司】

輸出拡大に意欲を見せる水谷優太さん

湖　北

長浜

地域支える鉄道の風景
写真コン特賞に平塚さんら

協議会会長賞を受賞した平塚陽色さんの作品

長浜、米原両市と県で構成する「鉄道を活かした湖北地域振興協議会」は、鉄道利用促進フォトコンクール「湖北の車窓から」の入賞者を発表した。両市の小学校に児童が在籍する家庭を対象に鉄道や駅に関する風景写真を募集し、87点の応募作の中から特賞6点、入選24点を選んだ。

特賞は次の通り。協議会会長賞＝「でんしゃまだかな」平塚陽色さん（塩津小3年）▽長浜駅長賞＝「夏の空と電車」藤木諒さん（びわ北小3年）▽米原駅長賞＝「たそがれ時の田村駅」岸田康希さん（南郷里小6年）▽県知事賞＝「しずかなせんろ」藤原望結さん（南郷里小2年）▽長浜市長賞＝「山と湖と田園」沢尾拓真さん（塩津小5年）▽米原市長賞＝「ともに見つめる先に夢をのせて」山本暁斗さん（高月小2年）

1月27日まで長浜、米原両駅で特賞・入選作品を、両市内のJR全駅で特賞作品を展示している。

【長浜通信部・長谷川隆広】

安全への取り組み紹介
近江鉄道が広報誌創刊

彦根

近江鉄道（本社・彦根市）は季刊広報誌「がちゃれぽ」を創刊した。A4判を三つ折りにしたリーフレット（6ページ）で、毎回5万部を発行。電車内や有人駅に置いて安全運行への取り組み、沿線イベント情報などを発信する。

2022年9月の創刊号は、線路と道路の両方を走れる「軌陸車」による除草作業を紹介。6月の夜間、線路に照明を当て、薄めた薬剤をまく様子を写真入りで説明している。また、第1種踏切（145カ所）での警報器、遮断機検査▽1カ月がかりで台車の分解整備などをする全般検査▽落雷などの信号機故障に備え、新人運転士も参加した訓練――をルポしている。

12月には冬号を発行。脱線事故を防ぐため全線（約60キロ）で進める「コンクリート枕木化」、沿線のひな祭りイベント情報などを掲載している。

【彦根通信部・伊藤信司】

「がちゃれぽ」の創刊号（左）と冬号

日露戦争で傷病兵を看護
長浜出身・出雲さんの足跡

長浜

展示された出雲やすを終戦・紹介の記念展を戦争看護師生涯

日露戦争で医療活動に従事した長浜出身の看護師の生涯を紹介する終戦記念展が長浜市大依町の浅井歴史民俗資料館で開催された。

戦時中に東京の陸軍予備病院で傷病兵の看護に当たった長浜市鍛冶屋町出身の看護師・出雲やすをさん（1886～1970）の生涯を35点の資料で紹介した。

戦争に関する資料として、1906年4月1日付で国から50円の下賜金が出たことを示す「日露戦争賜り金証書」や勤務する病院で面会に来た父と共に撮影した写真が展示された。ほかにも尋常小2年の時に贈られた勤勉証書や京都看病婦学校卒業証書なども並んだ。同資料館の冨岡有美子学芸員は「女性看護師の草分けとして、長浜にも日露戦争で力を尽くした看護師がいたことを知ってもらいたい」と話した。

【長浜通信部・長谷川隆広】